黒騎士の行く道~Dark Knight Go Road~

鬼畜な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
黒騎士の行く道～Ｄａｒｋ　Ｋｎｉｇｈｔ　Ｇｏ　Ｒｏａｄ～

【Ｎコード】
Ｎ４９６７ＢＡ

【作者名】
鬼畜な人

【あらすじ】
とある一般家庭、そこにその男は居た。これは某ウェブ小説サイトや某動画サイトを巡回していた、どこにでもいる高校生の話である。
サイトを巡回している時とあるスレッドを見つけ書き込む
すると・・・これは一般家庭で育った元高校生が、困惑しながらも、生き抜いて行く物語

第一話　いつのまにか異世界に・・・あれ？（前書き）

何故かモンスター成り上がり物が書きたかった
それだけなんだ・・・・
見たく無い方はブラウザバックしてくださいね

第一話　いつのまにか異世界に・・・あれ？

俺の名前は柴崎神治、ごく最近までごく普通の高校生だった

ん？どういう意味だって？

俺もよくわかってないんだから聞かないでくれ・・・

▽回想▽

どこにでもある普通の家、そこの2階に彼は居た

「あぁー、ついにこの小説も完結かあ・・・・さびしくなるなー・・・。」

そこにいる人物は、丸椅子に座って居た、容姿は長身で凛とした顔、女顔に近いのだろうか　そこに柴崎神治は居た

見ているサイトは某ウェブ小説サイトである

「おー、面白そうな小説がランキングに上がって来てるなー、さあて掲示板でも見てくるかー」

カチカチとマウスを動かす

「ん？何だこのスレ・・・何々・・・安価で異世界に飛ばします・・・釣りかなー」

そう言いながらも、マウスを動かしそのスレッドをクリックする

「安価取ったら携帯で写メとって貼るよｗｗｗ・・・っと・・・安価取れちゃったな・・・」

ースレッドー

１　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０１：００：００　ａｌ１４ｗｄｄｓ２ｅｗ４

安価で異世界に飛ばします＜＜３２０

３０７　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０３：４７：５２　ｋｕｋｄｄｓｗ１ｗ３２ａ

ｋｓｋ

３０８　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０３：４８：１２　ａｅ４ｂｕ３１ａａｌ２１

ガチで飛んだらｋｗｓｋ説明頼む　＜＜３２０

釣りだったら釣りでいいけどなｗｗｗ

ｋｓｋ

３０９　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０３：４８：４３　ｇ３ａｗ４９ｊｘ３２ｍｎ

異世界に飛んでエルフの乳を・・・

ｋｓｋ

３１０　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０３：４８：５２　ｋｖ１ｂｌｓ３３ｌｘｍｎ

＜＜３０９　お前・・・・消されるぞ

３１１　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０３：４９：３１　ｂｕｕ２ｋａ０９ｍｓ１２

＜＜３０９　エルフの乳ｗｗｗｗでかいんだろうなｗｗｗ

・　・　・

３１６　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２

／０１／０１　０４：０１：１２　ａｖ３２ｋｋｌｓ９３２ｘ

お前ら年越えしても元気だなｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ

＜＜３０９　グへへｗｗｗ

３１７　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０４：０２：０１　ｂｕｕ２ｋａ０９ｍｓ１２

ざわ・・・ざわ・・・

３１８　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０４：０２：１０　ｍｋ５７ｓｓｘｂｕｕ３３

＜＜３２０マダー？

３１９　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０４：０２：２３　ａｅ４ｂｕ３１ａａｌ２１

＜＜３２０　異世界に入ったらとりあえず写メ貼れ！

美人さんとかの・・・ねｗｗｗｗ

３２０　名無しの旅人　［安価で異世界に飛ばします］　２０１２／０１／０１　０４：０２：４１　ｌｉ７２ｍｍ２ｗｋ４１ｗ

安価取ったら携帯で写メとって貼ってやるよｗｗｗ

―スレッド―

「・・あれー・・・とれちゃ・・・・った・・・・な」

男の意識はそこで途絶え、この世界から消え去った

◇　◇　◇

薄暗い洞窟のようなところ・・・・そこで彼は目覚めた

まあ、人間の姿はしていなかったが・・・

「んっ・・・眠っちゃったな・・・・」

男は自分の手に違和感を感じ首を曲げる

ガチャッ

「・・・あれー？今首から鉄の音がしたんだけど気のせいかな？」

また首を曲げる・・・・

ガチャッ

「おっかしいなー首から鉄の音なんてしないはずなんだけどなー」

と言いながら

首を曲げて体を見る、その姿は・・・

「なんじゃこりゃあああああああ！！！」

鉄の鎧を着た？自分の姿だった・・・・・

話は冒頭に戻る・・・

▽３０分後▽

「よし、落ち着いた」

その鎧は２０分ほど意味不明な行動を取っていた

じたばたしたり、走ったり、周りから見たら変人のような行動だった

「状況を把握しよう、まずここは洞窟のようにじめじめした場所だな」

と言いながら地面に座り胡坐をかく

「今更だが、自分が息をしてるようには思えんなあ・・・・、まずこの鎧脱げないし・・・」

ちなみに今の容姿は、漆黒のようにどす黒い色の鎧、そしてそこからでる黒に近い赤の霧

言っちゃうと何だが中身（なかのひと）が（い）ない

本人が気づくのはちょっと先になるだろう

「・・・こんな状況で頭にステータス出ろ！なんて思い浮かべたら
どうなるんだろ、二次小説とかで
そういうのあるしなー」

その鎧は、そう言いながら頭に（ステータス出ろ！）と思い浮かべ
てる

「どうせ出ないだろ」

と思っていると、頭に・・・・

名前：空欄

種族：黒霧騎士（ブラックファントムナイト）

ＬＶ：１

スキル：空欄

年齢：０歳

現在地：名も亡き洞窟

場所補正：城・古城・街

逆場所補正：山・森

食物によるステータス補正：極低

（あっれえ！？出ちゃったよー！？）

鎧は・・・改め黒騎士は焦りながら鎧を脱ごうとする

（脱げないっ！・・・兜の前の部分だけ開けて水溜りで顔を見てみるか・・）

黒騎士は水溜りに向かってガッチャンガッチャンと音鳴らしながら歩いていく

ピチャーン・・・ピチャーン・・・

（やっぱ怖いなあー洞窟って・・・）

そう思いながら水溜りを覗く、すると自分の顔は無く黒い何かが霧のように浮かんで？いた

（・・・えーっと・・・ちょっと待て・・・さっきのステータスに黒霧騎士ってあったな・・・）

”黒霧騎士（ブラックファントムナイト）”（これだよな・・？）

「・・・・・モンスターかよおおおおお！」

黒騎士の声は虚しく洞窟に響いた・・・・

第一話　いつのまにか異世界に・・・あれ？（後書き）

出来たら感想お願いします

作者「これだけです」

神治「これだけ？」

作者「これだけです」

神治「これだｋ（無限ループ）

第二話　これからどうしよう（前書き）

書きたくて書いた
後悔はしていない！（キリッ

第二話　これからどうしよう

（・・・モンスター・・・？つまりどういうことだ？）

洞窟で胡坐をかき、顎に手を当て悩んでる黒騎士の姿は異様としか言い様がなかった

それは何故かって？モンスターが胡坐をかくこと自体がおかしいんだからな・・・

（えーっと・・・、これはゲームということか？いやいやおかしいだろそれは、とりあえず移動してみるか・・・・・）

と、ガチャガチャと鎧の音を響かせながら立つ

（そういや、腰の辺りに剣みたいなのがあったな）

腰についている１１０ｃｍ辺りの剣を取りだす

（結構重いな・・・・、当たり前かー・・・あれ？これって本物・・・？異世界？）

また顎に手を当てて悩もうとするが

（とりあえず外に出てから悩もう）

ということで自分で納得して又ガチャガチャと音を鳴らしながら歩いて行く

歩き始めて１０分経った頃

やはり音は無い

周りではやはりポチャーンポチャーンと水の音しかない

ホラーが怖いと思う人にとっては、地獄だろう

ちなみに、洞窟自体は真っ暗闇だがモンスター特有なのか暗視ゴーグルみたいに緑色に光って見える

そんな感じで歩いていると目視で５０ｍほどの所に光が見え始める

（光が見えた！）

ガチャッガチャッと音を鳴らしながら走っていくと・・・

（あっ）

と思うと、目の前に緑の水のような何かがゼリーのようにポヨンポヨンと擬音が付きそうな感じに

ゆれていた、そんな感じにゼリーを見ていたら触手を槍のように尖らせ、突いてきた

（ここで俺の人生終わりなのか・・・）　そう思っていると、

ガァンッ　と鎧が槍を弾く　鎧にはまったく傷は付いていない様だ
鎧に触手が当たった時何か感触がしたので　鎧にも神経がはいってるのかもしれない　と考えていると
ガッァン　ガッッァン
やはり、触手で鎧を突く、だがそれも鎧で弾く、その動作を数回繰り返したゼリーは、諦めたように
地面に吸い取られる様に消えていった
（やっぱりこれは鎧に助けられたのかな・・・・）
考えても無駄なので、そのまま外に出ることにし　洞窟の外に歩いて行った
ガッチャン　ガッチャン
「青空だあああああ！」
洞窟から出てきた時の第一声目はそんな言葉だった
すると、黒いバンダナを口につけた男が木の裏から出てきた
「兄ちゃん、有り金置いて行ったら見逃してやるぜ？」
（・・・あれー？これって盗賊なのかな？そういえば第一声が青空だーだったから
モンスターって気付いてないのかな・・・・それでも黒い霧が鎧から出てるはずなんだけどな・・・

まあいいや・・・この辺の街はどこにあるか聞いておこう）

「この辺に街はあるか？」

「在ると言えば在るな、無いと言えば無いな」

「どっちだ？」

「それはだな、冥府という名の街だよっ！」
盗賊は短剣を出し、やはり囮という風に後ろから盗賊が出てくる
盗賊は短剣で背中を突くが　ガッ　という鈍い音が鳴り、黒騎士が
振り返るとなおしてなかった
左手に持っていた盾が盗賊の頭にガツッと当たり「グハッ」と言い
ながら倒れる
「・・・・街はどっちだ？」

「えーっと・・・ここから東に歩いて３０分程の所に街道があるの
でそこに行けば・・・」

盗賊の口調は丁寧語になっていた、逃げたとしても追いつかれる、
攻撃は効かない　という
考えになっており、諦めていた。

「わかった」

とその時、盗賊のリーダー？以外の子分が飛び出し首を狙い短剣で
貫こうとしたが、「やめろ！」とリーダー
っぽい奴は言うが、勢い付いた物は止められる訳も無いので・・・
ガンッと鈍い音がなりガサガサッと
盗賊たちは逃げていた

ちなみに、貫かれそうになった当の本人は

「・・・・」

（どうしよう　この空気・・・とりあえずあやまｔｔ・・・いない・・・）

１時間経過

黒騎士は迷子になっていた、そんでもって森の奥深くにどんどん進んでいった

（・・・あれー？木々がどんどん狭くなっていってるんだが・・・・雑草も増えてきたし・・）

ガチャン　ガチャンと音を鳴らしながら歩いて行く

森の奥深くにもなるとモンスターが現れる、しかも凶暴だ。

鎧なんか着てガッチャンガッチャン音を鳴らしていたら格好の的。

今現在黒騎士は、囲まれている

（どうしてこうなった）

モンスターが集まってきた理由として三つ

血が出てその匂いを嗅いでやってきた

生き物の気配がするからやってきた

物音がするから獲物かと思いやってきた

理由としては三つ目にあたる

ガッチャンガッチャンと音を鳴らしてたらモンスターが来るのも当たり前

集まってきたモンスターは、その森の中でも凶暴差ではトップ3を争うモンスターが居た

地獄死体（ヘルゾンビ）だ　地獄死体と呼ばれる理由として二つ

一つ目は燃えている

二つ目は生き物構わずにゾンビ化させる

こいつらの恐ろしさは生き物関係無しにゾンビ化させるからだ

リーダーの名前は地獄魂使い（ヘルネクロマンサー）

地獄の凶暴な魂を生き物に植え付ける凶悪なモンスターだ。

ちなみに一匹目がゾンビ化すると、そのゾンビがそこらの凶暴な魂を適当に植え付けるので

めんどくさいモンスターだ　一匹一匹の強さが大人の3倍程度　大人4人で対処できるが

数が多いのでその対処法は意味を持たない　一番良い対処法は魔法・弓

（人間じゃないから初戦闘にちょうどいいか・・・めちゃくちゃ怖いけど）

剣を取り出し臨戦態勢を取る
そうすると地獄死体（犬）がとびかかってくる
ガンッと鈍い音がなるが傷が少しつく

（痛っ）

「くっそおお！」

剣を両手持ちで、思いっきり振り下ろす、そうすると地獄死体（犬）が一刀両断され
内臓や腸が飛び出てスプラッタな光景になったが、それでも死ぬぐらいなら、という風に剣を振り下ろし
残りの地獄死体を斬る、が地獄死体が「グォォォォオオオオオン」と嘆き声を上げ・・・・

グバッっと地面から音がなり手が出てきていた

そして足を捕まれる

（くそっ、こんなところで死んでたまるか！）と、剣で手の甲の方を刺し貫く

だが、グバッ　グバッ　と地面から音を出しながら数十体の地獄死体に囲まれる

もうその時点での黒騎士は無我夢中に剣を振るっていたので気付かなかった

スキルに”凶戦士化(バーサクモード)”が追加されていたことに、それも戦闘中の極度の興奮状態時のみでの発動だ
つまり、すでに発動していることになる

そうして黒騎士の戦いに入る

黒騎士は地獄死体に剣を振り上げ、叩っ斬りながら森の奥へ奥へと　進んでいく
黒騎士が進んだ後には、一刀両断された地獄死体がもぞもぞと動きながら倒れていた

「■■■ッァァァァ！」　声にならない声をあげる

それでも剣を振り回しながら奥へ奥へと進んでいく
そこにはドラゴン墓地と呼ばれる墓場があった

そこに地獄魂使いがいる、だが、地獄魂使いはそこらにあるドラゴンの死体を使い
ドラゴンゾンビを数百匹という数で従えていた
戦力にすれば王国一つが奇襲されれば滅びるクラスの数だった
だが、一つおかしい点があった
地獄魂使いが従えれる死体の数は５０程度
ドラゴンクラスの死体だったら２０程度　なのにこの数はまずおかしかった・・・・
だが黒騎士にとってこの程度の敵は鱗がゾンビ化による影響で脆くなっており、ただの雑魚であった

ドラゴンゾンビは火を吐いてくるが、黒騎士はそれを盾で防ぎ、その盾で頭を思いっきり叩き割る

ドラゴンゾンビ改め竜死体は、黒騎士を引き裂こうとするが・・・
「■■■ッァァァァァァ！」という風に
黒騎士は咆哮を上げ、そのまま剣を両手持ちに変え、手を叩き斬った後、背中をダンッダンッとのぼり
首裏に剣を突き刺す・・・竜死体達は、爪で引き裂こうと　ガシュッ　ガシュッとするが
全て避けられやはり腹を斬られるか、腕を斬られて、首を叩き落とされるか、
ぐらいしか無かった

そのように竜死体達はすべて倒され黒騎士は墓標に持たれかかり死ぬ様に眠った

▽次の日▽

黒騎士は目覚めたが、ここはどこだ？という風に辺りを見渡すと

「なんじゃこりゃああっ！？」

と声を上げ、スプラッタな光景に気絶しかけていた

「やべえ・・・吐きそう・・・吐けないけど」

内臓やら腸やらがそこら中に飛び出ており、首やら手やらが落ちている
そんな光景は誰が見ても吐き気する　自分がやったとは覚えてないが

「頭が痛いっ・・・・」

と黒騎士は頭に手を当てる

「今思ったんだけど・・・街ってどっちだ？」

絶賛迷子中だった

ステータス

名前：空欄

種族：黒霧騎士（ブラックファントムナイト）

ＬＶ：１２

スキル：凶戦士化（バーサクモード）

年齢：０歳

現在地：ドラゴン墓地

場所補正：城・古城・街

逆場所補正：山・森

食物によるステータス補正：極低

第二話　これからどうしよう（後書き）

初めての戦闘シーンです
どうですかね？

感想待ってます！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4967ba/

黒騎士の行く道~Dark Knight Go Road~

2012年1月13日23時08分発行